

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

## ⑪ 公開特許公報 (A)

昭56-73579

⑫ Int. CL<sup>3</sup>  
B 05 D 7/04  
G 03 C 1/74

著別記号

序内整理番号  
7048-4F  
7124-2H⑬ 公開 昭和56年(1981)6月18日  
発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 題名  
壁布物の製造方法

⑮ 特願 昭54-149792

⑯ 出願 昭54(1979)11月19日

⑰ 発明者 内田勇

日野市さくら町1番地小西六写  
真工業株式会社内

⑱ 発明者 桑原清

日野市さくら町1番地小西六写  
真工業株式会社内

⑲ 発明者 奥秋知久

日野市さくら町1番地小西六写  
真工業株式会社内

⑳ 発明者 早川秀行

日野市さくら町1番地小西六写  
真工業株式会社内

㉑ 発明者 通生政志

日野市さくら町1番地小西六写  
真工業株式会社内

㉒ 発明者 相沢一輝

日野市さくら町1番地小西六写  
真工業株式会社内

㉓ 出願人 小西六写真工業株式会社

東京都新宿区西新宿1丁目26番  
2号

㉔ 代理人 桑原義美

最終頁に続く

## 明細書

## 1. 発明の名称

壁布物の製造方法

## 2. 特許請求の範囲

被壁布物に壁布液を塗布して造布層をつくり、  
該造布層が乾燥する前に該造布層の縁から塗布液  
を吸引し、次いで上記の造布層を乾燥させる壁布  
物の製造方法において、塗布液を吸引する吸引ノズ  
ルの中央部から液体を塗布厚層部に噴出させ、こ  
の液体と塗布厚層部の造布液とを併せて吸引ノズ  
ルに吸引することを特徴とする壁布物の製造方法。

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は、壁布物の製造方法に関するもので  
ある。

一例に、本高フィルムベース等の被壁布物に塗  
布液を塗布すると表面張力の影響で壁の肥厚した  
壁布層ができる。この肥厚した壁の存在は、壁布  
層全体の電気を著しく遅らせる。このため過大な  
乾燥能力が必要となる。また、この壁を十分に乾  
燥させないで未乾燥の状態で乾燥すると、壁の塗

布液が壁面ローラに付着して割れたり、また、こ  
の壁が十分に乾燥しないうちに壁布物をローラに  
巻取ると、壁が先行部に巻き着して後の乾燥工程で  
巻きほぐす場合壁布物が切れる等の故障が発生す  
る。

これらの不都合を解く手段として、被壁布物  
の両端に蒸気を吹き付けながら被壁布面を晒し、  
壁布液を蒸発せしめて乾燥を行なう方法や、壁布  
層の端のみに通常の乾燥とは別に加熱空気を吹き  
付けて強制的に乾燥させる方法等が知られている。  
しかしながら、これらの方法には大掛かりな装置  
が必要とされ、またその操作は非常に面倒である。

このような不都合、不便をなくす技術として、  
保温ジャケットを有する壁布液吸用パイプ(吸  
引ノズル)により、壁布層の端部の壁布液を吸引  
する方法が特公昭52-38407号公報によって知られ  
ている。しかし、かかる装置によっては長時間に  
わたる壁布作業の場合に壁布液吸用パイプのノ  
ズル先端が壁布液の凝固によって詰まることが多  
く、十分な機能を発揮しえない問題の生ずること

が発明した。

従って、本発明の目的は、疊布層の疊石層においても疊布層の困難によってノズル先端の詰まりを生じない疊石層部の疊布層の疊石液を除去する方法を提供することである。

本発明の目的は、被塗布物に疊石液を塗布して疊石層をつくり、疊石層が乾燥する前に疊石層の端から疊布液を取り、ないで上記の疊石層を乾燥させる疊石層の製造方法において、疊石液を乾燥する吸引ノズルの中央部から液体を疊石層部に噴出させ、この液体と疊石層部の疊石液とを併せて吸引ノズルに吸引することによって達成される。

本発明の詳細を実施例について簡潔により説明する。

図1 図1および図2において、吸引ノズル1は吸引用開口2をその一端に、排液用開口3をその側面に有し、その内部に液体噴出ノズル4を吸引ノズル1の端面壁部5に設けた通孔6に液体噴出ノズルの外側後端近くに設けた通孔7を総合

- 3 -

第3図に示すように被塗布物12に塗布された疊石層の疊石層11に吸引用開口2が正対しかつ疊布液と接触しうる位置に本発明の吸引ノズルを固定し、液体噴出ノズル4の端端と供給すべき液体供給容器とをポンプの吐出口に導管で接続し、排液用開口3を減圧装置に接続する。このように配管して、液体噴出ノズル4に温水を送りつつ排液用開口から吸引すれば、吸引用開口2の直前を移動する疊石層の疊石層の疊石液が液体噴出ノズル4から噴出する温水と共に吸引用開口2から吸引され、疊石層の疊石層の疊石液が除去される。液体噴出ノズルは、ポンプの吐出口に接続せずに温水槽に導管で接続するだけでもある程度の流量は保たれる。

この取の条件は実験により容易に求めることができるが、一例を示せば下記の通りである。

排液用開口の直徑	5.5 mm
排液用開口部の圧力	-900 mm/Hg
液体噴出孔の直徑	4 mm
液体噴出ノズルからの噴出流量	20 cc/min

- 5 -

規格56-73579(2)  
させ吸引ノズル1に対して液体噴出ノズル4を回転させることによって吸引用開口部2と液体噴出ノズル4の液体噴出孔8との間隔を任意に調節しうるようしている。吸引部の側面には3個の通孔孔9を設け、これらに総合した3個の調整ビス10を総合させて調整ビス10の一端を液体噴出ノズル4の外壁に固定させ、3個の調整ビス10の各々を回転させるとその端方向に移動し、吸引用開口2と液体噴出ノズル4の液体噴出孔8との相対的位置を調節しうるようしている。液体噴出ノズル4の液体噴出孔8の反対側の先端部は基本を導くパイプと接続しうるようにしてある。吸引ノズル1の先端部1aは吸引ノズル1の本体1bと総合により着脱可能となっており、先端部1aのドーム型部18は内部の空気を総合のよいように遮断することができる。

次に、疊石層をゲル化して乾燥させろセラチンを含む構成層を有する疊石層を乾燥する場合にこの装置を適用する方法について説明する。

疊石液を疊石層、乾燥工場前の工程において、

- 4 -

吸引用開口2の先端と

被塗布物との間隔

180 μ

液体噴出孔10の外壁と吸引ノズル

1のドーム型部の内壁との間隔 1.5-2 mm

本発明に係る疊石液乾燥装置は、疊石液からの溶出の蒸発や疊石液の冷却によるゲル化等によって固化しやすい疊石液を疊石した疊石層の疊石液を除去する際に吸引開口に目詰りの発生がなく疊石層安定した作業を可能にする利点を有する。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係る疊石液乾燥装置の実施例の正面図、第2図は第1図に示した装置の側面図である。第3図は疊石層との關係位置を横断面図で示した説明図である。

1——吸引ノズル	1b——吸引ノズル1の本体
1c——吸引ノズル1のドーム型部	2——吸引用開口
3——排液用開口	4——液体噴出ノズル
5——吸引ノズル1の端面壁部	6——通孔
7——通孔	8——液体噴出孔
9——通孔孔	10——調整ビス

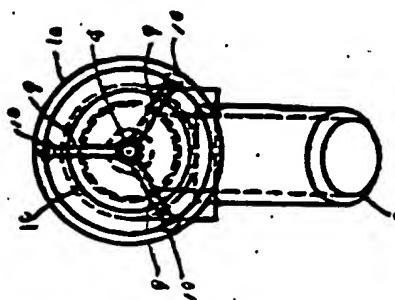
- 6 -

1a ----- 抽引ノズル 1 の先端部  
1b ----- 部属部  
1c ----- 被盖部

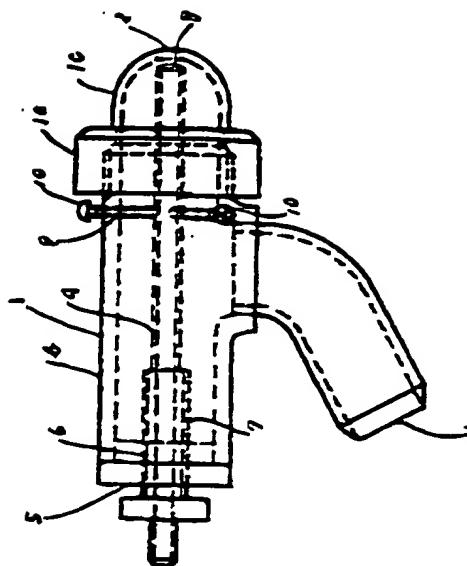
特許56-73579(3)

代理人 金原興業

ナニ

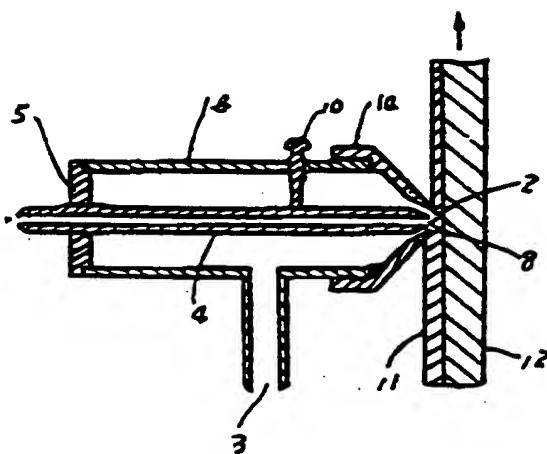


ナニ



- 7 -

ナニ



since 1D3

retracting  
extended

第1頁の続き

◎発明者 田島敏雄

日野市さくら町1番地小西六号  
真工業株式会社内